

令和3年度 大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成・  
大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業  
(成果報告書)

令和3年7月14日(水)～令和4年3月18日(金)

学校法人四国大学

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、四国大学が実施した令和3年度大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成・大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製・転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

# 令和3年度「大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成・ 大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業」成果報告

学校法人四国大学

## I. スポーツ分野の統括業務の実施状況について

- (1) 令和元年度に学長を本部長とする全学組織として「四国大学スポーツ推進機構（SUスポ）」を立ち上げ3年目となる。スポーツアドミニストレーター2名を任命・配置し、スポーツ関連部署の体制整備を図り、大学のスポーツ活性化、地域貢献等に寄与することを目的に事業に取り組んでいる。平成31年4月に新設したスポーツ健康館をその推進拠点に位置づけ、事務局は学生支援課内に設置している。

[学内での位置づけ]

|             | 役職名  | 氏名                        | 所属                            |
|-------------|--|---------------------------|-------------------------------|
| 本部長         | 学長   | 松重 和美                     |                               |
| 副本部長        | 事務局長   | 佐野 義行                     |                               |
| 本部員         | 学部・学科等から選出された者                               | 高村 茂                      | 人間生活科学科                       |
|             |  | 大野 宏之                     | 経営情報学科                        |
|             | 全学共通教育センター、施設課、社会連携推進課、学生支援課、大学広報戦略室から選出された者 | 平田 英治                     | 全学共通教育センター、<br>スポーツアドミニストレーター |
|             |  | 木村 浩二                     | 施設課                           |
|             |  | 安永 潔                      | 社会連携推進課                       |
|             |  | 永松 宜洋                     | 学生支援課                         |
|             | 今出 知佐  | 大学広報戦略室                   |                               |
| 本部長が必要と認める者 | 山中 一剛  | 大学広報戦略室<br>スポーツアドミニストレーター |                               |
| 事務局         | 事務局責任者                                       | 中田 寛志                     | 学生支援課                         |
|             | 事務担当   | 黒羽 祥平                     | 学生支援課                         |
|             | 事務局員   | 中田 恵莉子                    | 学生支援課                         |

### (2) 事業内容

#### ■第1回四国大学スポーツ推進機構本部会議

日時 令和3年7月21日（水）9：30～10：30

場所 本館3階 特別会議室

議題 ①事業計画及び予算(案)について

②上記事業に対する助言及び質疑について

③四国大学のスポーツ振興に関する課題について

④その他

出席者：全員（木村委員の代理で野田が出席）

□本部長の挨拶

・コロナ禍における厳しい状況のスポーツの意義等について話す。

- ・本日の会議は、スポーツ庁委託事業の審議と本学のスポーツについての課題等を協議する機会であることの説明をする。

□事業の概要について説明（事務局より）

- ・5/14に採択され7/14に委託契約を締結した事業であり、契約締結後の事業が執行対象になることや本事業は大学のもつスポーツ資源を有効に活用し、大学を拠点として地域貢献やスポーツの活性化に寄与するとともに、コンソーシアムの形成、財源確保、自走化を目指すことを目的にしている等の説明をする。

〈質疑応答〉

- ・コンソーシアムの概念は？STARプロジェクトと関係しているのか？
  - ⇒（事務局）コンソーシアムの委員は、スポーツ行政や学校、総合型スポーツクラブの他に金融関係や観光関係の方を考慮しており、幅広い観点から本事業の合宿誘致等のスポーツツーリズムや自走化に向けてご意見をいただき各事業に活かしていく考えである。直接ではないかもしれないが、STARプロジェクトにもリンクしていくと思われる。
  - ⇒（本部長）本学が包括協定を結んでいる各種企業等とSTARプロジェクトをうまく繋ぎ、サポーターになってもらい収入を得ることも考えられるのでは。

□事業計画について説明（事務局より）

- ・委託契約の実施計画を具体的に説明する。

〈質疑応答〉

- ・（本部長）補助金がなくても、本事業と同様の内容が継続的にできるように自主財源を少ない金額でもつくっていく事が必要であるが、各クラブで取り組んでいることやアイデアがあれば披露して欲しい。
  - ⇒ラグビーは公式戦にスポンサーのロゴは入れることはできないが、ウォーミングアップ用のものには企業名等を入れて活動している。STARプロジェクトにつながればいいのだが。
  - ⇒イーグレッツサポーター制度の対象をスポーツ分野の卒業生（OB/OG）に絞って募集するのはどうか。OB/OGたちは分野別入試で奨学金を給付されていたという背景もあることから応募が多く見込める気がする。
  - ⇒スポーツ健康館のトレーニングジムを一般に開放して利用料を徴収したらどうか。
- （本部長）人件費削減のためにもスポーツジムとタイアップしてはどうか。
  - ⇒大学の一番の資本は施設でなく人材であると思う。人材は他の民間にはないものがある。学生を企業や自治体へ派遣することで就職につながっていくこともある。
- （本部長）地域スポーツの振興に繋げるためにも、大学内での資格認定制度をつくって基本的知識や技能も付けて地域と連携していくことも大切である。
  - ⇒学内で健康指導員の認定などを行っているが、そのことで相手や周囲に安心感を与えているように思う。

□本学のスポーツに関する課題

- ・新設のセミナーハウスの利便性やスペースをもう少し専門的な立場から現場目線で考えて欲しい。
  - ⇒根本的な修繕は難しいが、使い方等で検討していく。
- ・しらさぎ球場の人工芝が一部破損しているところ修繕を早くして欲しい。
  - ⇒8月中旬までには工事終了する予定である。
- ・大学の寄付を募るとき苦慮している。

- ⇒同窓会、父母会と連携するなど潜在的な四国大学ファミリーをつくっていくための組織的な仕組みを作る必要がある。
- ・本学のスポーツ救護とか栄養には精通した人材がいるが、スポーツ心理学の分野は大切であるがいないのが現状である。
  - ⇒徳島大学の中塚教授はスポーツ心理学の専門で、外部評価委員会の委員長をしてもらっている。事業にも外部評価委員以外にも関わってもらおう工夫等を考えていきたい。

□第2回の本部会議の案内と今後の各事業の支援の協力を依頼して閉会する。(本部長)



【第1回SUスポ事業本部会議の様子】

#### ■第2回四国大学スポーツ推進機構本部会議

- 日時 令和4年2月8日(火)
- 場所 四国大学特別会議室 (Zoom会議に変更)
- 議題
  - ①事業の執行状況の説明
  - ②執行経費の説明
  - ③事業の反省と大学の課題
  - ④今後の取組(提案)
  - ⑤その他

参加者 第1回と同じ

□本部長の挨拶

- ・コロナ禍における厳しい状況で工夫や熱意で事業を行ったことへのねぎらい。
- ・本日の会議は、スポーツ庁委託事業の審議と本学のスポーツについての課題等(提案)を協議する機会であることの説明をする。

□事業内容の説明(概要・成果)事務局より

I スポーツ分野の統括業務

スポーツ推進機構本部会議(第1回・第2回)の協議内容

II SA配置の現状

III スポーツコンソーシアム会議の協議内容

IV 具体的な取組実施状況

- ・コロナ感染による中止事業(2事業)と延期予定事業の説明(2事業)をする。
- ・各事業の概要・成果の説明をする。
  - ①事業計画案どおりに実施
    - ラグビークリニック(3回)、女子バレー四国IH支援合宿、女子サッカー2023全中支援合宿、弓道四国IH支援等
  - ②変更届で実施した事業

- サーフィン教室、パラアスリート発掘！ジュニア体力測定
- ・今後実施予定の事業
- 延期予定の2事業、STAR プロジェクト、外部評価委員会

【 質疑応答 】

(委員) サポーターズクラブの認知度が低く広報が十分でないと思われるが。

選手が望むサポーター制度かどうかを考える必要があるのでは。

⇒ 12月の理事会で承認され1月に入って動き出したので十分には周知できていないと思われるが、皆さんの協力で会員を増やしていくことをお願いしたい。強化クラブの顧問を中心に知り合いや卒業生に依頼したり、我々も知人を通じて啓発している現状もある。ポスター等の啓発も多くの協力者を得て協力者の輪を広げていきたい。

□予算執行状況の説明 事務局より

- ・執行経費一覧を用いて説明する。

(本部長) 諸謝金、旅費、借損料、印刷製本費等の予算と使用金額、残額、使用率を個別に説明  
(本部長) 各事業をコロナ感染の中で縮小や、中止、延期のため残金が出るのは仕方が無いと思うがご意見はどうですか？

⇒特になし

(本部長) 残りの予定の事業が円滑に実施できるようにと思います。感染対策を十分にしてください。よろしくお願いします。

□事務局より提案

- ・2年間のSA事業を通じて経験したこと、学んだこと

- ①大学の資源(施設・人材等)の活用
- ②大学としての社会・地域貢献
- ③競技力向上と人材育成
- ④財源確保による自走化

以上のことを来年度より考えて、今後活かすために次のことを提案した。

「自走化していくためには、財源確保としてサポーターズクラブの収入、セミナーハウスやスポーツ健康館ジムの有効活用を通じた収入、将来的には更に魅力ある強化指定クラブにして試合やイベント収入を増やしていき、その財源をもとに6つの強化指定クラブが企画・立案した事業を審査して助成金を出す仕組みをつくる」  
以上の提案たたき台として、大学のこれからを考える機会にした。

(委員) 現状でもそれぞれの内容は所管課がしている。もっと、サポーターズクラブに顧問やこの会の委員も自ら加入するなど積極的に協力するべきだ。

⇒ 時間はかかるが協力してやっていきましょう。

(委員) 事業が終われば、終わりですか？

⇒ 四国大学スポーツ振興機構は大学の組織としてあるので、機構としては大学スポーツの活性化や地域貢献の役割を果たすべきである。事業(補助金)に依存でなく大学独自の予算や自走化を図るためにも機構は継続する。

□その他 事務局から

- ・昨年の幸長君の日本選手権優勝や書道の全国最優秀など全国一の偉業を称え今年度プレートを作成している。今年度中に経営会議を経て設置予定。
- ・中井先生(スポーツ整形外科医)の研究室に超音波画像で診断する「Vscan Air GL」というエコーが導入されることの周知



【Zoom会議（ホスト側から）】

## II. 大学スポーツアドミニストレーターの配置の状況について

□スポーツアドミニストレーター配置状況 2名配置

山中一剛（強化指定クラブ：女子ラグビー担当、大学広報戦略室兼務）R1 配置

平田英治（強化指定クラブ：女子サッカー担当、全学共通教育センター兼務）R2 配置

□大学スポーツアドミニストレーターに求めた資質・能力

- ・大学スポーツ振興への熱意があること
- ・大学スポーツイベントの企画運営調整能力をもっていること
- ・スポーツ健康館（拠点施設）の有効活用への工夫や実践をすること

□大学スポーツアドミニストレーターが担っている役割

- ・スポーツ学生の活動・育成に関する諸事項及びスポーツ関連事項の全体運営・管理を行う。
- 加えて、学外のスポーツ関連組織や他大学・地域自治体・企業等との有機的連携や新規企画の実施、既設立の「STAR プロジェクト」を活用した就職支援・資金確保も担う。

□大学スポーツアドミニストレーターの業務

- ・スポーツ健康館トレーニングセンターの管理運営
- ・スポーツ健康館内でのトレーニングセンター利用講習会の定期的な実施
- ・スポーツ健康館を活用した授業の実施  
全学共通科目「健康スポーツ」・「初年次ゼミⅠ・Ⅱ」  
経営情報学部「生涯スポーツ論」・「スポーツマネジメント演習」
- ・STAR プロジェクト賛同企業への営業活動
- ・各種スポーツイベントの企画統括

## III. 大学のスポーツ資源を活用したコンソーシアムの形成状況及び事業の実施状況について

- (1) 大学が有するスポーツ資源を活用することによって、スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致及びスポーツツーリズムの推進等を図り、地域活性化や健康の増進に寄与するとともに大学の収益事業に関することにも取り組むことを目的として「四国大学スポーツコンソーシアム」を設置した。

〔学内での位置づけ〕

| 役職   | 氏名    | 所属の役職                 | 備考        |
|------|-------|-----------------------|-----------|
| 委員長  | 山中 一剛 | 四国大学アドミニストレーター        | 強化指定クラブ顧問 |
| 副委員長 | 平田 英治 | 四国大学アドミニストレーター        | 強化指定クラブ顧問 |
| 委員   | 吉岡 直彦 | 徳島県教育委員会体育学校安全課       | 学校体育行政関係者 |
| 委員   | 金本 賢治 | 徳島県スポーツ協会スポーツ推進部長     | スポーツ行政関係者 |
| 委員   | 山本 恵美 | NARUTO 総合型地域スポーツクラブ代表 | 地域スポーツ関係者 |
| 委員   | 麻野 貴仁 | 阿波銀行徳島北支店次長           | 金融業関係者    |

|    |       |                    |        |
|----|-------|--------------------|--------|
| 委員 | 八尾 利昌 | 東武トップツアーズ(株) 徳島支店長 | 観光業関係者 |
| 委員 | 平野 芳朗 | (株) エフエム徳島営業部課長    | 報道関係者  |

(2) 会議の内容

日時 令和3年8月5日(木) 16:00~17:00

場所 本館3階 特別会議室

議題 ①四国大学コンソーシアムの目的・意義について

②事業計画及び予算(案)について

③上記事業に対する助言及び質疑について

④四国大学のスポーツ振興に関する課題について

⑤その他

出席者：山中委員長、平田副委員長、山本委員、麻野委員、八尾委員、平野委員

(欠席者2名：吉岡、金本)



【四国大学コンソーシアム会議の様子】

□事務局より

- ・ 配付資料の確認の後、事業の趣旨・目的と SA 設置の経緯の説明。
- ・ 設置要綱により会議の委員長、副委員長の承認を確認する。
- ・ 委員の書面紹介の確認

□委員長のあいさつ

- ・ オリンピックの日本人の活躍やコロナにおける厳しい状況の中のスポーツの意義等について話す。
- ・ 本日の会議は、スポーツ庁委託事業の目的と意図を理解して、事業の審議と本学のスポーツについての課題等を協議する機会であることの説明をする。

□事業の概要について説明(事務局より)

- ・ 本事業を提案するにあたっての背景や現状・課題等について説明する。
- ・ 本事業は大学のもつスポーツ資源を有効に活用し、大学を拠点として地域貢献やスポーツの活性化に寄与するとともに、コンソーシアムの形成、財源確保、自走化を目指すことを目的にしている等の説明をする。

□事業計画について説明(事務局より)

- ・ 委託契約の各事業の実施計画を要約して説明する。

□意見及び提案

【山本委員】

- ・ NARUTO 総合型スポーツクラブでは、会員650人が幼・小学校の体力づくりを中心に小中高の一貫したハンドボールの指導体制の構築や障がい者スポーツとして車いすソフトボールなどを行っている。このような事業の趣旨はよく理解できるし、大切であると思うので、事業をより充実するためにも総合型クラブとして関わられることを関わっていきたい。



【麻野委員】

- ・銀行が地元と大学の間に入って調整役として果たせるものがあると思う。金銭的なことですぐに何かできることは思いつかないが、スポーツを通じた人材育成として人とのつながりの面で力になれると思う。

【八尾委員】

- ・東武トップツアーズはオリンピックのオフィシャルパートナー。  
現在、県のスポーツコミッションのサポートとしてジョージアなど事前合宿を誘致している。会社としても全国につながりがあるので、強豪校を呼ぶことに手助けできると思う。これらから仕掛けていくことが必要だと思う。

【平野委員】

- ・現在、子どもたちが活動する施設で困っている現状がある。大学の施設は魅力的である。開放してくれることによってスポーツの競技人口も増えるのでは。

委員長

- ・大学の施設開放は、徳島の競技力向上にもつながっていくと思う。

事務局

- ・来年のインターハイ徳島開催種目やワールドマスターズゲームズの開催種目、再来年の全国中学校体育大会徳島開催種目の合宿誘致を軸に考えている。
- ・来年の四国開催インターハイの練習会場に弓道場や体育館を開放する予定である。

〈事務局が欠席委員から聞き取ったコメント〉

【吉岡委員】

- ・小中高と大学の人的交流をもっと積極的に行い、スポーツ施設の開放も今まで以上にお願いしたい。

【金本】

- ・鳴門・大塚スポーツパークのトレーニングジムの運用方法は収益化の参考になるかもしれない。(アルバイト雇用)

副委員長

- ・卒業後のキャリア形成が重要である。そのためにも「STAR プロジェクト」を活用していきたい。2019年よりUNIVASもできてスポーツと勉学の両立も謳い、それに加えてスポーツビジネスとしての収益の重要さも謳っている。収益化が重要であるにもかかわらず、その部分が弱い。

事務局

- ・大学でもサポーター制度のことについて話し合うこともあるが、ただ入ってくださいだけでなくインセンティブが必要。そのあたりのことで、委員の方で何か参考になることがあれば教えてほしい。

事務局

- ・今回の会だけでなく、今後も事業を執行していく中で事業が充実していくヒント等があれば教えていただくとありがたい。

□委員長がお礼の言葉と議事を総括して会議を終了する。

#### IV. 地域活性化に向けた具体的な取組の実施状況について

##### (1) 中止事業

###### ① 第1回「スポーツと地域をつなぐ」

スポーツクラブの学生が県内の過疎地域（那賀町）に行き、町の文化財「丸太乗り」大会の運営ボランティアに参加する予定であったが中止となった。

###### ② 第2回「スポーツと地域をつなぐ」

10月25日実施予定の地元Jリーグ「徳島ヴォルティス」の試合前イベントに、スポーツクラブの学生が参加して支えるスポーツの経験を積み、社会貢献の一翼を担う予定であったが中止となった。

###### ③ 第2回弓道 四国 IH 支援合宿

インターハイ四国開催の主会場となる徳島県において本県の代表校となる可能性の高い県内高校生の有段者が、四国大学弓道部と合同練習会をする予定であったが中止となった。当初はセミナーハウス活用の合宿形式を計画していたが変更して日帰り練習会にしたが、学内で課外活動が禁止となったためやむを得ず延期し、その後中止となった。

###### ④ 第2回陸上競技 四国 IH 支援合宿（投擲）

投擲の講師を学外から招き、中高生を対象にクリニックを実施する中で、砲丸投と円盤投げを経験してもらう予定。在学学生はサポートにまわり、陸上競技の楽しさや奥深さを知ることにより全国高校総体2022（四国開催）や全国中学校体育大会2023（四国開催）で活躍する選手を応援する計画であったが、学内で課外活動が禁止となったためやむを得ず延期し、その後中止となった。

##### (2) 実施事業

◎新型コロナウイルスの感染防止のため、上記の4事業の中止やセミナーハウスに合宿を予定していた中高生のキャンセルがある中、各クリニックを1回で募集する人数を減らし複数回開催するなど、継続的に感染防止に努めるとともに本事業の趣旨や目的をふまえて柔軟に対応した。また、コンソーシアムの会議での提案をふまえ、障がい者スポーツの視点や地域資源（サーフィンスポット）を活用した事業を趣旨に沿って実施した。

###### ① 第1回女子ラグビークリニック 大学スポーツを通じた地域貢献、地域活性化

- ・日 時 令和3年7月27日（火）19:00～20:30
- ・場 所 四国大学しらすぎ球技場
- ・講 師 山中みゆ（徳島県国体ラグビー女子ヘッドコーチ）、四国大学女子ラグビー部
- ・参加者 18名（高校生9名、中学生4名、小学生5名）
- ・概要 徳島県ラグビーフットボール協会より講師1名を派遣していただき実施。四国大学女子ラグビー部が指導補助を行った。徳島県内の小学3年生から高校3年生までのラグビー経験者、未経験者の計18名が参加。内容はアイスブレイクから始まりダイ

ナミックストレッチの紹介や1対1の抜き合いを実践した。最後は大人数での試合形式のタッチゲームを行った。

- ・成果 参加者は小学生から高校生と年齢に幅があり、最初は参加者全員の緊張が感じられたが、最初のアイスブレイクで大学生の部員も一緒に入り参加者個々への声掛けを積極的に行い、時間とともに笑顔が増えていき和やかな雰囲気にする事ができた。ダイナミックストレッチでは、関節の可動域を広げたり、怪我防止に繋げたりする動きを紹介し、1対1ではジャンケンを取り入れ、プレーの判断も重視して実施。ラグビー未経験の参加者も素晴らしい動きを見せていた。最後のタッチゲームでは、「ナイスプレー!」「ナイストライ!」という声がグラウンド内に賑やかに響き渡り、活気づいていた。参加者からは「次もあったら参加したい」という声がたくさん聞かれた。当日は、感染対策の徹底や水分補給もこまめに行い、怪我人も出る事なく無事に終える事ができた。ラグビーを通じて世代を超えた実りある交流ができた。



【 コーチング・練習風景 】

## ② 第1回女子バレーボール 四国 IH 支援合宿 スポーツツーリズムの推進

- ・日時 令和3年8月20日(金)～8月21日(土) 18:00～9:00
- ・場所 四国大学しらさぎセミナーハウス・四国大学体育館
- ・対象 松山東雲高等学校バレーボール部 部員14名 指導者2名  
四国大学バレーボール部 部員2名(学外利用者対応のため)
- ・概要 県外の高校生が徳島県で開催される大会に参加するにあたり、大会前のコンディション調整のために、本学の施設を利用。  
(本来は本学の学生との強化練習会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため合同での活動は中止とした)
- ・成果 8月21日から2日間、徳島県で開催された第76回国民体育大会四国ブロック大会にはベストコンディションで臨むことができ、本国体の出場権を得ることができた(後日、本国体は中止となった)とのことで、高校の顧問からは大変感謝された。また、生徒たちからも「また、四国大学にきたい。」「感染症対策も万全で、ゆっくりと安心して体を休めることができた。」という声が多く聞かれた。



【 セミナーハウスから体育館へ移動 】

### ③ 第1回女子サッカー 2023 全中支援合宿 スポーツツーリズムの推進

- ・日時 令和3年10月17日(日) 13:00~14:30
- ・会場 四国大学しらさぎ球技場
- ・目的 サッカーにおけるフィジカル、テクニカルの向上とゲームでの交流
- ・対象 県内女子中学生のサッカー選手  
(2022 四国 IH 開催を目指す中学生)  
参加者 19名(1名ケガで見学)
- ・概要 四国大学女子サッカー一部スタッフによるサッカー指導  
2022 四国開催インターハイのための競技力向上を図る合宿形式の練習を企画していたが、新型コロナ感染を考慮し日帰りの短時間の練習会となった。
  - ① フィジカルトレーニング(2人組でリアクション能力を鍛える)
  - ② テクニカルトレーニング(パス&コントロールの精度を高める)
  - ③ テクニカルトレーニング(シュートの精度を高める)
  - ④ GKトレーニング(GKの構えとキャッチの基本を身につける)
  - ⑤ ゲーム(トレーニングの成果とゲームでの交流をする)
- ・成果 中学生年代でのフィジカルの課題としてアジリティ能力の向上があり、ステップワークを鍛えることは、1対1の攻守における重要な鍵となる。2人組でできるリアクション能力を必要とするトレーニングを行ったが、相手との駆け引きの中で生まれる動きに反応する動作は非常に難しいものがあるが楽しみながら行えた。テクニカルな面では、基本となるパスやコントロール、シュートの精度を上げるためのトレーニングを行った。コーンやエアードミーを使うことで、精度を高めるためのターゲットや実践を想定したトレーニングを行い効果的であった。GKの参加者も専門のGKコーチから基本的なスキルをあらためて学ぶことができた。最後のゲームでは、トレーニングの成果を出すことと楽しみながらお互い交流することを目的に行った。多くのシュートやグッドセーブを見られ、お互いのチームがハードワークする中でパスによるコミュニケーションがとられていた。単発でのクリニックであったが、今回の参加で各自が感じた課題をチーム練習で意識してトレーニングを続けることにより克服できると感じた。



【フィジカルトレーニング】

#### ④ 四国大学サーフィン教室 大学スポーツを通じた地域貢献、地域活性化

本学サーフィン部は2019年国内年間ランキングで2位になる等、全日本クラスで活躍する学生を擁している。また、四国大学スポーツコンソーシアム会議の席上で、地域資源を活用した地域貢献が提案された。こうした状況から、サーフィン部の活動を本事業に組み込むことで、「大学スポーツを通じた地域貢献、地域活性化」と「地域社会との連携強化」を図ることが出来ると考え「高校生サーフィン体験会」を実施した。

- ・日 時 令和3年10月16日（土）9:00～12:30
- ・場 所 小松海岸（徳島市川内町）
- ・講 師 四国大学女子サーフィン部
- ・参加者 高校生11名
- ・概要 徳島県サーフィン協会より派遣していただいた講師2名が、サーフィンの初心者を含む11名の高校生を対象にサーフィンの楽しさや安全面の配慮を中心に教室を開催した。四国大学サーフィン部員が補助的にサポートした。
- ・成果 初めての試みで高校生限定20名参加で募集して11名の参加者であったが、全員が緊張の中にも真剣に楽しんで取り組むことができ良かったと感じた。リピーターが増えて行くことも期待できた。更に継続的に普及活動を行い、徳島サーフィンという地元のアピールと本学サーフィン部という人材の資源を今後も活かしていくことになる取組となった。  
 （参加者アンケートより）  
 「2回目の海に行って、みんながどんどん上手になっているのを見ているのが楽しかったです！」  
 「1日じゃなく半日なのちょっと物足りない感じもするけど体力的にはとてもよかった。」  
 「小松海岸のように広い砂浜海岸は初めてできてとても興奮しました。」  
 「実際にサーフィンをするときは時間の流れが違うような気がしました。サーフィンは波にいろんな個性、質があってそれぞれに速さ、高さが違ってそれを見分けるのが難しかったです。」  
 「来年もこのような機会があれば必ず参加したいです。今日は本当にありがとうございました。」



【 啓発ポスター 】



【 当日の様子 】

## ⑤ 第2回ラグビークリニック 大学スポーツを通じた地域貢献、地域活性化

四国大学の強化指定クラブでもある女子ラグビー部が、ラグビーの普及振興と地域貢献を目的に独自に行っていた事業を SA 事業に位置づけた。

- ・日 時 令和3年10月22日(金) 19:00~20:30
- ・場 所 四国大学しらさぎ球技場
- ・講 師 山中みゆ(徳島県国体ラグビー女子ヘッドコーチ)、四国大学女子ラグビー部
- ・参加者 10名(中学生4名、小学生6名)
- ・概要 徳島県ラグビーフットボール協会より講師1名を派遣していただき実施。四国大学女子ラグビー部が指導補助を行った。徳島県内の小学3年生から中学3年生までのラグビー経験者の計10名が参加。内容はテーマを「ランニングスキル」とし、ボール鬼ごっこ、1対1の抜き合い、人数を増やした実践形式のトレーニングを実施した。クリニックの最後は大人数での試合形式のタッチゲームを行った。
- ・成果 ウォーミングアップで実施した「ボール鬼ごっこ」では、大学生の部員も一緒に入り、参加者の緊張もほぐれ、笑顔あふれる和やかな雰囲気ですたートすることができた。1対1の抜き合いでは、グラウンドの指定したグリッド内に障害物を設置し鬼ごっこの感覚でプレーしてもらい、相手を抜くランニングのコースどりやスピードの緩急、またステップやスワープといったラグビーのランニングスキルについての講習も行い個人のスキルアップに繋げてもらった。またプレーヤーの人数を増やした実践形式のトレーニングでは、相手を抜いた後のランニングのコースどりや判断、仲間とのコミュニケーションについて実技指導をした。参加者からは「大学生のお姉さんたちから名前を呼んでもらって一緒にプレー出来て楽しかった」、「次も参加したい」といった声がたくさん聞かれた。当日は、感染対策も徹底し怪我人も出る事なく無事に終える事ができた。ラグビーを通じて世代を超えた実りある交流ができた。



【 ナイター練習風景 】

## ⑥ 第3回ラグビークリニック 大学スポーツを通じた地域貢献、地域活性化

- ・日 時 令和3年11月5日(金) 19:00~20:30
- ・場 所 四国大学しらさぎ球技場
- ・講 師 山中みゆ(徳島県国体ラグビー女子ヘッドコーチ)、四国大学女子ラグビー部
- ・参加者 9名(中学生4名、小学生5名)
- ・概要 徳島県ラグビーフットボール協会より講師1名を派遣していただき実施。四国大学女子ラグビー部が指導補助を行った。徳島県内の小学3年生から中学3年生までの

ラグビー経験者の計10名が参加。内容はテーマを「コンタクトプレー」とし、ボール鬼ごっこ、コンタクトドリル、タックルドリルを実施した。クリニックの最後は大人数での試合形式のホールドゲームを行った。

- ・成果 ウォーミングアップで実施した「ボール鬼ごっこ」では、大学生の部員も一緒に入り参加者の緊張もほぐれる笑顔あふれる和やかな雰囲気スタートすることができた。コンタクトドリルでは、相手にヒット時のボディコントロールをキーワードに、大学生の持ったコンタクトバッグへヒット時の姿勢、ボールの持ち方、足の動かし方などを学んでもらえた。またタックルドリルでは、タックルバッグに対して、タックルに入る姿勢、タイミング、肩や腕や首の使い方などを細かく指導し、安全にプレーできる体の使い方を学んでもらえた。最後のホールドゲームでは、相手を抜いたり、止めたり、参加者は歓声をあげて楽しんでいた。参加者からは「大学生のお姉さんたちから名前を呼んでもらって嬉しかった」、「また次も参加したい」といった声がたくさん聞かれた。当日は、感染対策も徹底し怪我人も出る事なく無事に終える事ができた。ラグビーを通じて世代を超えた実りある交流ができた。



【 ナイター練習風景 】

## ⑦ パラアスリート発掘！ジュニア体力測定

大学スポーツを通じた地域貢献、地域活性化

本事業の実施計画段階では障がい者スポーツ関連の事業はなかったが、「四国大学コンソーシアム」の委員の中から障がい者スポーツの視点を事業に盛り込むことも重要という意見をいただき事業を企画し、実施することに至った。

- ・日 時 令和3年11月5日（金）14:45～16:30
- ・場 所 徳島県立国府支援学校
- ・講 師 四国大学女子強化指定クラブ（協力：徳島県障がい者スポーツ協会）
- ・参加者 14名（特別支援学校高等部）
- ・概要 徳島県障がい者スポーツ協会と協力し、未来のパラアスリートを発掘すべく、徳島県立国府支援学校高等部の生徒14名が参加して実施。10m走、サークル走、サイドステップ、メディシンボール投げ、立ち幅跳びの5種目の測定を行なった。測定後には本学女子ラグビー部の学生と参加生徒が長縄跳びやボッチャで交流を図った。
- ・成果 ウォーミングアップでは四国大学強化指定クラブ部員（女子ラグビー、女子サッカー等）がストレッチを指導し、その後、徳島県障がい者スポーツ協会の職員の方々と共に体力測定を実施した。参加した14名の生徒はどの種目の測定にも嫌がらずに積極的に参加してくれた。全種目の測定後には、四国大学女子ラグビー部

員と参加生徒が一緒になって長縄跳びやポッチャを楽しんだ。長縄跳びでは30回連続を目標に挑戦し、目標達成時にはラグビー部員と生徒が一緒になり喜びを分かち合った。またポッチャではチーム対抗戦を実施し、一投一投に熱の入った好勝負で大いに盛り上がった。当日は感染対策も徹底して実施し、参加者の生徒たちと共に楽しみながら素晴らしい交流を図れた。



【 体育館での体力測定・ポッチャ 】

## ⑧ 第1回弓道 四国IH支援 スポーツツーリズムの推進

- ・日時 令和3年11月13日（土）9：00～11：30
  - ・会場 四国大学弓道場
  - ・参加者 県外弓道部所属高校生及び四国大学弓道部員
  - ・概要 弓道における技術向上及び対戦を通しての交流  
当初は四国大学セミナーハウスに宿泊して合宿形式の練習会を計画していたが、コロナ禍のため、日帰りの練習会に変更して実施した。
- ①「見取り稽古」  
弓道の練習方法の一つとして重要視されている見取り稽古を行った。  
見取り稽古とは、他者の射形（フォーム）を見て学ぶ練習方法。弓を引くうえで肝心な射形は個人の骨格・体格・筋力等により適した形が異なり、さらには指導者の有無や弓道経験等によって大きく左右される。他者の射形を見て学ぶことで、射癖の改善や行射のコツを掴むなど、弓道では特に有益な練習方法とされている。
  - ②「対戦練習」  
弓道における技術は、指導や見取り稽古を取り入れた普段の練習によって磨かれるが、精神面は実戦の中で磨かれることが多いため実践形式の練習を行った。
  - ③「交流」  
参加者には、大学から記念品（四国大学大学戦略広報室作成）を贈呈することで交流を深めた。
- ・成果
    - ① 今回は高校生・大学生がお互いの射形を見合い、悩み解決の糸口が見えたり、他者の射形に憧れを抱いたりする者が見られた。異なる環境下で修練する者同士が良い刺激を受け合っていた。



- ② 今回は高校生・大学生それぞれにチームを組み、トーナメント実戦を想定した練習を行った。緊迫した空気の中での練習により、参加者は自身の精神面における弱点の把握等、向上につながる気付きを得ているようであった。
- ③ 「マスコットがかわいい!」、「またここで引きたい!」等と喜んでもらった。また、参加者同士で中(あた)るコツや大会での体験談、射癖の悩み・解決方法等を話し合い、深く交流することができた。



【 対戦練習 】



【 交流 】

## ⑨ スポーツ傷害・栄養学の研修会 スポーツ栄養、救護の研究とその社会還元

- ・日時 令和3年11月27日(土) 9:00~12:00
- ・場所 四国大学中央棟 A305・A306
- ・対象 体育系クラブ(強化指定クラブ含む)＝アスリート学生 45名  
文化系クラブ(一般学生参加者含む)＝一般学生 31名  
教職員(顧問含む)6名 総計 82名
- ・概要 当初の計画はセミナーハウスの宿泊者を見込みスポーツ傷害に特化した「第1回」研修会を8月に実施予定であったが、本学のPCR検査者が7月で86名となり「第1回」を中止することとした。12月に予定していた「第2回」と同時期に予定していた「栄養学に関する研修会」をコロナ感染の配慮した要領で合同の研修会(泊なし)として実施した。
  - 研修① 講師：中井大輔氏(整形外科医・スポーツドクター)  
「運動する我々が知っておきたいこと」  
(対象)アスリート学生・一般学生
  - 研修② 講師：山上文子氏、前田 翼氏(県スポーツ栄養士)  
「トップアスリートを目指そう!」(対象)アスリート学生  
「バランス良く、しっかり食べよう!」(対象)一般学生
- ・成果 アスリート学生45名と一般学生と教職員37名の2グループに分けて研修会を実施した。中井先生は、スポーツ傷害の観点から筋肉や腱・靭帯と関係する骨の基礎的な知識をわかりやすく教えてくれた。また、ストレッチの重要性や方法とスポーツ傷害の予防と治療についても学生に理解しやすく講義してくれたため、学生も自分のこととして捉え、競技生活や実際の生活に生かそうという意識が出てきたように感じた。  
山上先生と前田先生はオリンピック選手を栄養面や心理面でサポートした経験

をもとに、栄養の重要性を熱心に話してくれた。また、一般学生には栄養の基本的な知識と重要性を講義してくれ学生達も熱心にメモをとりながら聞いていた。質疑応答では、学生からの積極的な質問や疑問点が出され充実した研修会となった。



【 講師紹介と講義中の様子 】

## ⑩ ソフトテニスクリニック 大学スポーツを通じた地域貢献、地域活性

- ・日 時 令和3年12月4日（土）9：00～16：00  
令和3年12月5日（日）9：00～16：00
- ・場 所 四国大学日ノ上グラウンドテニスコート
- ・講 師 林田 和樹氏（ヨネックス株式会社）、四国大学ソフトテニス部
- ・参加者 105名（12月4日：85名、12月5日：20名）
- ・概要 ヨネックス株式会社にて実業団選手として活躍し、令和3年度の全日本ナショナルチームメンバーでもある林田氏を招いて県内の中学生および高校生に対し競技力向上講習を実施した。ウォーミングアップや基礎練習に加えて応用練習や大会時における考え方で幅広く指導して頂いた。なお、感染症対策として受付時における検温の実施、マスクの配付、手指消毒の励行を徹底して行った。
- ・成果 県内の中高生はトッププレイヤーの技術を目の当たりにすることで、多くの知識と経験を得られたようであった。講習が進むにつれ競技に対する意欲も高まっている感じが感じられ、生徒たちの競技に対する思いに大きな影響を与えられたと思われる。  
また、本学の施設において当行事を行い、指導スタッフや学生も運営補助にあたることで、本学ソフトテニス部の活動についても改めてPRする機会となり、「今後も定期的で開催してほしい」という要望を多く頂くなど、大学と地域との関係強化にも結び付けられた。



【 全体説明と実技指導 】

## ⑪ 第3回「スポーツと地域をつなぐ」スポーツに多角的に関わる人材の育成

### ～ 人とサル共生プロジェクト 2021 木頭ゆずちぎり隊 ～

- ・日時 令和3年12月5日(日)
- ・場所 那賀町ゆず農家
- ・対象 研修クラブ学生、ボランティア支援室員(15名)
- ・概要 サルのエサとなっている取り残しゆズを、木頭町出原を中心に収穫を行う。サルの冬場の重要なエサとなっている「取り残しゆズ」を収穫し、サルにとって魅力の無い集落に変えていく対策を実施した。  
四国大学学生ボランティア活動支援室・全学共通教育科目キャリア形成実践の学生のスポーツクラブ関係学生を中心に15名参加した。約400キロの収穫があった。今後、一部を使ってジャムを作る予定。ジャムの製品ができたら四国大学食堂にて販売予定。この活動は、農家のお手伝いが主ではなく、「鳥獣害対策」が主である。
- ・成果 徳島県の農家の共通の課題でもある「鳥獣害対策」のボランティアとして那賀町の「取り残しゆズ」の収穫に取り組んだ。体力的にも厳しい作業であり、農家の方から感謝の言葉を多くいただいた。収穫作業の合間にラグビーボールでゲーム的な交流もできて楽しかった。ボランティアを通じて地域の人たちとつながり、協働作業でもたくさんの学びがあり良い経験ができた。このようなボランティアを継続していくためにも、交通費等の財源確保の方策を大学と地域がともに考えていく必要を感じた。



【 ゆずの収穫 】



【 ラグビーボールで交流 】

## ⑫ 第1回陸上競技 四国 IH 支援 (走幅跳・三段跳) スポーツツーリズムの推進

- ・日時 令和3年12月18日(土)・19日(日)
- ・場所 四国大学日ノ上運動競技場(18日(土))  
ワークスタッフ陸上競技場(19日(日))
- ・対象 1日目(高校生18人・中学生19人)、2日目(高校生47名・中学生18人)
- ・講師 小松隆志氏(アジア大会メダリスト)
- ・概要 来年度、四国インターハイ(陸上競技)が徳島県で開催されることから、スポーツツーリズムの推進と地域振興を目的に、県内外の高校生および中学生を対象とした走幅跳・三段跳に特化した講習会を実施した。高知農業高校陸上競技部監督の小松隆志先生を講師としてお招きし、「走幅跳・三段跳の技術、体力トレーニング

グ」が行われた。1日目は道具を使用したトレーニング、2日目は道具を使用しない動きづくり（ドリル）や足腰の筋力やバランス感覚が向上されるトレーニングが行われた。

- ・成果 講師は、三段跳においてアジア大会のメダリストであり、U20世界選手権やユースオリンピックのコーチを務めた実績を持ち、競技実績・指導実績共に全国から注目を集める指導者であった。そのため、参加した中高生のみならず引率した先生までもが食い入るように本講習会を受けていた。本講習会を通じて、学校の垣根を越えた選手間同士のコミュニケーションが生まれ、選手たちはお互いに刺激し合いながら技術・体カトレーニングを学んでいた。また、講師自らが動きのデモンストレーションを行い、選手たちとコミュニケーションをとりながら行われた講習会は、全国合宿に匹敵するほどの充実した2日間となった。また、スポーツツーリズムの推進の成果として、本講習会では徳島県・高知県・鳥取県・兵庫県からの参加者があった。高知県・鳥取県の選手においては徳島市内・しらすぎセミナーハウスで宿泊を行い、本講習会の目的の1つでもあったスポーツツーリズムの推進を果たすことができた。来年度インターハイ開催地である徳島県に足を運ぶ機会ができ、実績のある指導者から技術・体カトレーニングの方法を学ぶ等、大変貴重な経験ができて良かったとの声があがった。



【 1日目 】



【 2日目 】

### ⑬ 第2回女子バレーボール 四国 IH 支援 スポーツツーリズムの推進

- ・日時 令和3年12月18日（土）8：30～17：00
- ・場所 四国大学体育館
- ・対象 PL 学園高校・高松南高校・城南高校バレーボール部 60名 指導者6名
- ・指導 指導者4名 四国大学バレーボール部 16名

- ・概要 県外および県内の強豪校と本学学生との強化練習会を実施し、互いのチームの強化ならびに交流をはかった。
- ・成果 高松南高校・城南高校は全国大会出場の常連校であり、PL 学園高校も大阪で3位と非常に力のあるチームである。高松南・城南高校については2022年1月に開催される第74回全日本バレーボール高等学校選手権大会、PL 学園高校については2021年12月22日から開催される第40回記念近畿私立高等学校バレーボール選手権大会に向け、非常に有意義な強化練習会となった。また、次年度の活動に向け、チームの課題が明確となり、新たな目標ができたことに、各チームの顧問からは大変感謝された。

高松南とPL 学園が来学するのは今回が初めてであったが、先生方からは「こんなにいい環境でバレーができるのはとてもいいですね。」「ぜひともまたこのような機会を。」というお話があり、生徒からも「今まで一度も対戦したことのないチームと対戦できてよかった。」「来年のインターハイが徳島なので、また徳島で会えるのが楽しみだ。」という声も聞くことができた。



【 練習風景 】



【 試合風景 】

#### ⑭ 女子サッカー 2023 四国全中支援 スポーツツーリズムの推進

- ・日時 令和3年12月26日（日）～27日（月）
- ・場所 四国大学しらすぎセミナーハウス、四国大学しらすぎ球技場
- ・対象 FCリベルタ岡山 選手 24名、指導者 3名
- ・概要 2023年に全国中学校体育大会が四国で開催されるにあたり、県外の中学生の強化合宿（交流試合）として本学の施設を利用。
- ・成果 四国大学より、FCリベルタ岡山（岡山県）の強化合宿を目的として招致し、プルミエール徳島（徳島県）、ルタドール宍粟市（兵庫県）の3チームと四国大学女子サッカー部で四国大学しらすぎ球技場を使用してリーグ戦を行った。交流試合の後は、四国大学しらすぎセミナーハウスで大学生と交歓会を行い、宿泊してもらった。大変良い環境で合宿ができたと言指導者より感謝の声があった。普段、試合をする機会がないレベルの高いチームとの経験を積むことができたという選手も声も聴くことができた。



【 交流試合 】



【 セミナーハウス 】

## ⑮ イーグレッツサポーターズクラブ役員会

- ・ 日時 令和4年1月18日(火) 18時30分～19時30分
- ・ 場所 四国大学スポーツ健康館ミーティングルーム
- ・ 出席者 福田哲也代表(元徳島ヴォルティス、現医療法人勤務)  
相原正和代表(サッカー部、フットサル同好会立ち上げ)  
木宮まり副代表(元専属モデル、TV出演中、現オスカープロモーション)  
梅津萌副代表(イーグレッツ1期生・女子サッカー部主将)  
佐藤光俊監事(陸上競技部、現四国大学アスリートクラブ)  
中村神菜監事(イーグレッツ1期生・女子サッカー部、現大学GKコーチ)  
松重和美学長、佐野義行事務局長、平田英治女子サッカー部監督、山中女子ラグビー部監督、中田恵莉子陸上部監督、黒羽祥平ソフトテニス部監督、今出知佐大学広報戦略室広報専門官、和田庸介大学広報戦略室職員、藤本香奈江大学広報戦略室職員
- ・ 目的 サポーター会員を募集し、大学スポーツを「支える」機運を醸成し、大学アスリートと地域住民とのコミュニケーションの活性化を図る。
- ・ 概要 **【議事要旨】**  
○役員委嘱 佐野事務局長より、正式に代表役員6名に委嘱を行った。  
○役員自己紹介 各役員より、以下の内容で自己紹介があった。  
○四国大学関係者紹介 今出広報専門官より、四国大学関係者の氏名と所属の紹介があり、Eサポの事務局を大学広報戦略室とすることが説明された。  
○学長挨拶 松重学長より、以下のような挨拶があった。
  - ・ Eサポが発足できることを嬉しく思っている。
  - ・ 本学では日本一の奨学金制度を設け優秀な生徒を募集し成果を出している。
  - ・ 今後は大学側とサポート側からの双方向の情報発信を強化していきたい。
- 四国大学スポーツ・イーグレッツサポーターズクラブについて  
下記資料に基づき、Eサポの目的や会員募集についての説明があった。
  - ・ 四国大学スポーツ・イーグレッツサポーターズクラブ規約
  - ・ 令和4年度活動計画書(案)
  - ・ チラシ配布一覧

・令和4年度収支予算書



Aiming for the TOP

**四国大学スポーツEgrets**

## サポーターズクラブ会員募集

四国大学は、陸上、弓道、女子サッカー、女子バレー、女子ラグビー、ソフトテニスを中心に、日本、世界で活躍するアスリートの育成に取り組んでいます。この競技部を基盤としらさぎ「イーグレッツ」と称し、その活動を積極的に広げるとともに全国にイーグレッツの魅力を発信するため、イーグレッツサポーターズクラブを設立しました。日本一を目指す学生アスリートをサポートするサポーターズクラブのご入会、お待ちしております！

サポーターズクラブ 年会費・特典

|   |  |  |
|---|--|--|
| <p><b>年会費</b> (1口以上)</p> <p>個人会員 <b>4,000</b>円(税込)</p> <p>団体会員 <b>30,000</b>円(税込)</p> | <p><b>会員特典</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●オリジナルTシャツ</li> <li>●イベント・芳楽へのご招待</li> <li>●しらさぎ球技場の貸出(有料)</li> <li>●しらさぎセミナーハウスの貸出(有料)</li> <li>●会報誌の送付 など</li> </ul> |  |
|---|--|--|

※本学施設の使用は、本学の行事等により、使用できない場合があります。  
詳しくは四国大学スポーツポータルサイトのサポーターズクラブページをご覧ください。

入会方法

ご入会は  
スポーツ  
ポータル  
サイトから



03-8262-4444

**STEP1** 左記のQRコードからスポーツポータルサイトにアクセス。  
イーグレッツサポーターズクラブのページをご覧ください。

**STEP2** 「入会申請」ボタンをクリックして、会員登録をご確認いただき、  
入会申込画面に必要事項を入力し、入会申請を行ってください。

**STEP3** イーグレッツサポーターズクラブのページにある「サポーターズクラブ(年会費)」のボタンを  
クリックして、「学校法人四国大学 四国大学(年会費)」より決済手続きを行ってください。

○意見交換

① 福田代表より下記の質問と意見があった。(→事務局の回答)

- ・ 会員募集活動の開始時期について →すでに開始済み
- ・ 会員の有効期限について →入会年度の3月31日まで(令和3年度は例外で令和5年3月31日まで)
- ・ 会員募集用の名刺を作成してほしい →早急に作成し後日連絡する
- ・ 会員になるための条件について →会員はどなたでもなれる
- ・ イベントの日付を早期に決めていただきたい →イベント日は検討中
- ・ 各競技部の試合日等の連絡をしてほしい →スポーツポータルサイトに掲載しているので、活用する
- ・ 選手と就職先が繋がる活動も兼ねて行いたい →実施されたい

② 相原代表より下記の質問があった。

- ・ 会員申込後の流れ →申込後、戦略室からサンクスメールを送付。支払後、会員特典を送付
- ・ 支払方法 →クレジット、コンビニ、郵便振込が可能。
- ・ 県外の同窓生へ会員案内する方法 →ホームページのURL、チラシのPDFを早急にお渡しする
- ・ イベントの日付を早期に決めていただきたい →イベント日は検討中

- ③ 木宮副代表より下記の質問と意見があった。
- ・ 大学スポーツの SNS はあるか → 大学で運用しているものはなく、各競技部で SNS を活用している
  - ・ サポーターズクラブの SNS を作成し、より6競技部を知ってもらえるようにする（毎日 同じ時間に投稿することが大切。） → 事務局での運用が難しい現状がある。選手を巻き込み検討していき
- ・ 成果 同制度を周知するための組織体制が整い、委員一同で会員数増加に向け働きかけていくという機運が高まった。さらに発足時期からも後述の STAR プロジェクト情報交換会においても賛同企業・団体へ周知するなど、同プロジェクトとの相乗効果が期待できる。
- なお、当該役員会以降、会員募集を開始したところ、現在個人会員 37 名と団体会員 17 団体からの入会申込があり、会費 738,000 円が納入済みである。（令和 4 年 3 月 15 日現在）

## ⑩ STARプロジェクト情報交換会

- ・ 日時 令和 4 年 2 月 17 日（木）
- ・ 場所 JR ホテルクレメント徳島  
（コロナ感染を考慮して Zoom を併用したハイブリッド形式）
- ・ 参加者 学生・顧問 30 名 会場 28 名 オンライン 54 名
- ・ 目的 地元企業・団体・自治体の経営者や人事担当者等と学生アスリートや指導者との交流、大学スポーツやスポーツによる地域振興等について意見交換する会合を開催し、学生のキャリアイメージの形成支援や就職活動のサポートを行う。
- ・ 概要 新型コロナウイルス感染症対策のため、STAR プロジェクト賛同団体・企業のほとんどがオンラインの視聴となる。徳島県知事 飯泉嘉門氏の挨拶の後、強化指定スポーツ部の学生たちが、令和 3 年度の活動報告をパワーポイントで行った。最後に、徳島市長 内藤佐和子氏、四国放送株式会社 報道制作局長 網師本誠司 氏、徳島トヨペット株式会社代表取締役 玉置 潔氏、株式会社レーザシステム代表取締役社長 土内 彰氏から激励の言葉があった。
- ・ 成果 本学では、2015 年に「四国大学スポーツ人財育成 STAR (Shikoku University Top Athletes Rearing) プロジェクト」を立ち上げ 7 年目となり、徐々にプロジェクトの目的や内容に賛同していただく企業や会社が増えている。その背景には、徳島からスポーツ分野で日本のトップ、世界大会やオリンピックを目指す人財を育成するため、スポーツ分野特別奨学金制度により意欲ある学生確保や競技力向上のための施設整備、公認スポーツ栄養士による栄養サポートなどを行うとともに、全国レベルのスポーツ大会における優勝等の成果を挙げていることもあると思う。今回は、コロナ感染対策もあり、企業や会社の代表の方との対面での交流の機会を設定できなかったことは残念であったが、各クラブの成果報告の中でオンラインを通じたメッセージを発信は好評であり、今後に繋がっていくと思われた。



また、後日（令和4年3月5日）に行われた本学交流プラザ「TAG-RI-BA」のリニューアルオープンイベントにおいても同情報交換会で作成したポスターを活用するなど、継続して多くの学外関係者に同プロジェクトの宣伝を実施できている。



【会場からのオンライン発信】

【TAG-RI-BA オープンイベントでの活用】

## ⑪ 外部評価委員会

- ・ 日時 令和4年2月22日（火）
- ・ 場所 Zoom 会議
- ・ 概要 事業の検証・分析（課題の洗い出し等）
- ・ 委員 委員6名・事務局3名 計9名

|   | 役職  | 氏名     | 勤務役職            | 備考        |
|---|-----|--------|-----------------|-----------|
| 1 | 委員長 | 中塚 健太郎 | 徳島大学准教授         | 学識経験者     |
| 2 | 委員  | 分木 秀樹  | 徳島県スポーツ協会専務理事   | スポーツ行政関係者 |
| 3 | 委員  | 藤井 敬久  | 徳島県高等学校体育連盟会長   | 学校体育関係者   |
| 4 | 委員  | 南 啓介   | 徳島インディゴソックス球団代表 | プロスポーツ関係者 |
| 5 | 委員  | 山上 文子  | 徳島県スポーツ栄養士協会前会長 | スポーツ科学関係  |
| 6 | 委員  | 高杉 繁樹  | 徳島新聞社運動部長       | 報道機関関係    |

- ・ 概要

### 【議事】

- (1) 本部長あいさつ
- (2) 成果報告及び評価
- (3) 今後の取組
- (4) その他
- (5) 副本部長謝辞

### (議事内容)

□成果報告における質疑応答・意見交換

- ・ (委員) 合宿誘致のために苦労したこと、また宿泊した場合とそうでない場合で競技力の向上に差があるかどうか？

⇒コロナ禍で当初、合宿予定であったチームのキャンセルや日帰り対応などチームの県や学校の状況に応じて、事業担当者が柔軟に対応してくれた。合宿の方が寝食を共にすることでお互いを知るという面では効果は大きいと思う。

・(委員)令和4年度のインターハイ四国開催に向けて、対応してくれていることは本当に有り難い。大会中も運営面等で協力していただけると助かる。

・(委員)

コロナ禍で厳しい中、県内外のチームと交流できる機会があったことは本当に良かった。今後は海外も視野に入れて取り組んで欲しい。また、インディゴソックスとのコラボの企画もお願いしたい。

⇒大学からも是非お願いしたい。

・(委員)泊をすることでの学びは大きいと思う。今後のコロナの収束を願うばかり。

・(委員)四国大学の強みは何かを考えて今後も取り組んで欲しい。合宿時の参加費はどうしているか？

⇒セミナーハウスは、できたばかりで認知度もまだ低く、スポーツ庁との相談で広報も兼ねるということで参加者無料、その費用は補助金から支出とさせてもらった。次年度からは自走化のためにも有料化の中で使用頻度を増やす努力をしていきたい。

□補足説明（「するスポーツ・観るスポーツ・支えるスポーツ」のデータを基に）

・(委員)「支えるスポーツ」の対象はどう捉えているのか・

⇒今回新設のコンソーシアム会議や今回の外部評価委員会等の各種会議の参加者や、クリニック等の企画運営に携わっている顧問・学生、スポーツボランティアの方々など、直接スポーツをしていない人を対象にしている。

⇒「観るスポーツ」が2年前より減少しているのは、参加型の企画が増えていることも要因である気がする。参加型は、参加の仕方により「支えるスポーツ」としていることも多い。

・(委員)「支えるスポーツ」として栄養の面からのサポートをより充実させることも大切。捕食の意識を高めることも大切。

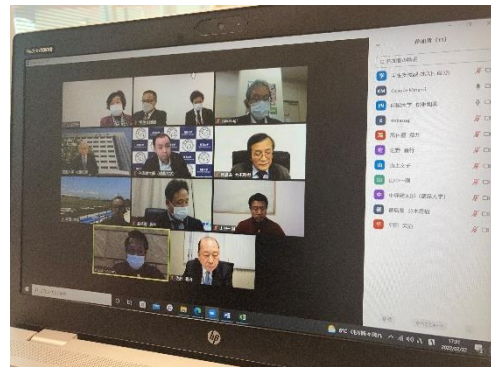
□今後の取組について

・(委員)サポーターズクラブをより充実させて、学内だけでなく広く学外にも広げて欲しい。

・(委員長)

サポーターズクラブのターゲットをどこにするかが重要。

四国大学のキラコンテンツは「認定こども園」と考えている。スポーツをしている学生や児童学科の学生が、こども園の子供と交流する企画(ex. しらさぎ球技場で月1回交流イベントを強化クラブの学生が企画・運営)するなどして、こども園の保護者に寄付を募ることなど。費用対効果や「今やっていることを誰に向かって発信するのか。」を考えるとともに、方向性を決め持続可能な取組をしてほしい。



【 オンラインによる会議 】

□事業の検証（外部評価委員の評価を基に評価グラフ作成⇒後日各委員に送付）

資料①より

- ・ 広報活動の評価が最も低いことが喫緊の課題と思われる。その課題克服のためにも、四国大学スポーツ推進機構において全学的な重点施策として広報活動を位置づけ協力体制を構築していく。また、今年度、創設したサポーターズクラブの今後の取組を通じて自走化を図っていく施策に引き続き取り組んでいくことが望まれる。

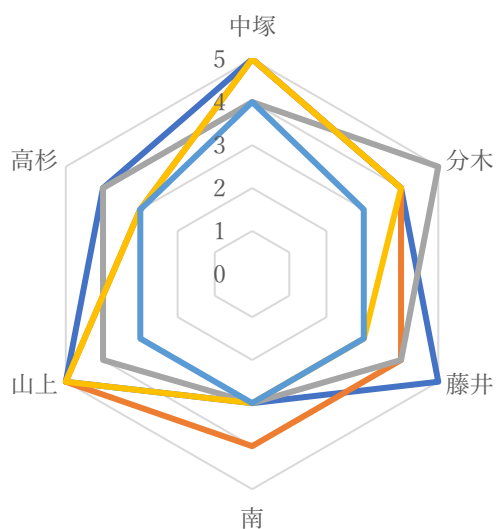
資料②より

- ・ 令和元年度と比較すると各委員の評価(各委員の平均評価)は、ほとんどの項目において低い。2年前と比較して大学の強みや特徴を全面に出せていないことや、事業自体に視野の広い工夫が必要であった。また、コロナ感染対策の中で SNS を通じたスポーツ振興や地域貢献の取組も考えていく必要がある。

### R3 項目別評価

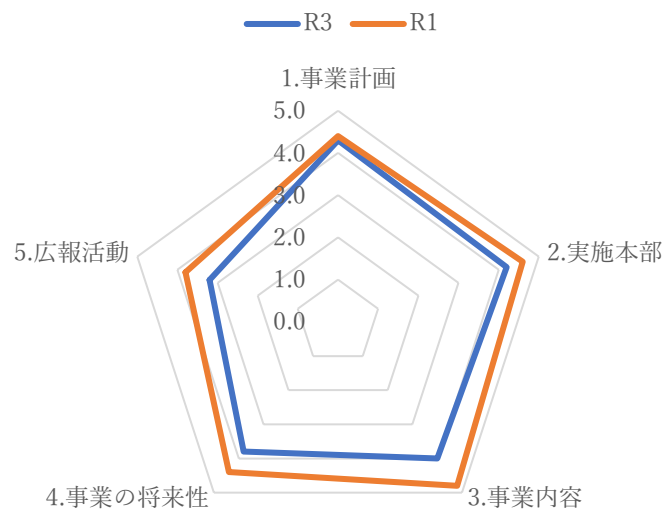
資料①

— 1.事業計画 — 2.実施本部 — 3.事業内容 — 4.事業の将来性 — 5.広報活動



## R1・R3 項目別年度比較

資料②



VI. その他  
特になし